

各位

日本農産工業株式会社

2013年7～9月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2013年7～9月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2013年4～6月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約1,650円値上げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、4月以降、6ドル台前半から7ドル（ブッシェル当たり）にかけての範囲で取引されています。昨年の大旱魃の影響で、依然として米国のとうもろこし需給は逼迫基調にあり、相場は底堅く推移しています。

今年度の米国産とうもろこしは、4月から5月にかけて米国産地が低温・多雨傾向となったことより、作付けが例年より大幅に遅れております。今後、受粉期の高温乾燥や成熟期の早霜等の影響も懸念されるため、今後のとうもろこし相場の上昇リスクとなっております。

2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は、4月以降上昇しています。南米産大豆の豊作は確定しているものの、ブラジルのインフラ不備による輸出遅滞によって、米国産大豆に対する需要は逼迫傾向にあり、シカゴ定期大豆粕相場を押し上げる要因となっております。このような状況を受けて7～9月期間渡しの大豆粕価格は、4～6月期間と比べ大幅値上がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス級本船の運賃は、トン当たり40ドル台後半～50ドル台前半水準での取引となっております。南米のインフラ不備による滞船が続いており、運賃相場は底堅く推移しております。

4. 外国為替

ドル／円相場は、4月4日の日銀による大規模金融緩和策の発表後、大きくドル高円安へ動き、5月には一時2008年以来の水準となる1ドル＝103円台をつけました。その後は、急激なドル高円安進行に対する反動が起き、直近では1ドル＝95円近辺で取引されています。1～3月がおおむね1ドル＝87～97円の範囲だったのに対し、4月以降はおおむね1ドル＝93～103円の範囲となっております。